令和４年度ノーリフティング普及推進事業　実践報告会

ノーリフティングケア２年目の挑戦

～持続 と 拡大～

医療法人　博愛会
介護老人保健施設　博愛苑

これまでのノーリフティングケアの取り組み

2018年　ノーリフティングケア委員会の発足
福祉用具を用いた介護の開始
福祉用具の受け入れは良好であったが、定着せず

2021年　ノーリフティングケア普及促進事業への参加
まずは定着を図っていくため、
介護度の高い（平均介護度3.4）フロアから導入開始

※当苑は在宅復帰フロアと療養フロアあり
介護度の低い（平均介護度1.8）在宅復帰フロアは、ほぼ未介入

１年目を終えた結果

出来たこと

・重度の腰痛保持者は軽減
・入浴、移乗場面での福祉用具の使用
・福祉用具の効果を理解

出来なかったこと

・感染症対策で計画が進まない
・腰痛が継続
・福祉用具＝ノーリフティングケア
・抱え上げての介護が残存
・福祉用具の数が十分でない
・指導マニュアルが無い
・介護度の低いフロアへの伝達が出来ていない

2年目の目標

福祉用具の整備と定着

体制の確立

介護度の低い、他フロアへの周知

福祉用具の整備と定着

- **ボード3枚、フレックスボード1枚追加購入**
  - ・誰が見ても分かりやすいように工夫
    →使いやすくなったとの声あり

- **フレックスボードも入浴用と移乗用で分担**
  - ・利用者の不快感軽減と、保管場所が2か所に
    →スタッフの移動距離が短縮し、使用頻度が増加

- **スタンディングリフトのデモ機を借りて評価**
  - ・「Hug」と「ささえ手」を実際に使用し、当苑でどちらが合うかを検討
    →Hugに決定　3ヵ月程度レンタルで導入し、その後購入予定

体制の確立①

- **マニュアルの整備**
  - ・年間スケジュールを含めたマニュアルを作成
    →新卒者、中途採用者に対しての体制が確立
  - ・チェックリストを作成
    →現在在籍している職員の進捗管理が可能

- **リスクマネジメントの体制作り**
  - ・ヒヤリハット報告、共有の流れが確立
  - ・ラウンドにて業務中の腰痛発生箇所を調査
  - ・入浴、更衣、整容、食事介助場面で腰痛発生リスクあり
    →**対策実施**

食事介助、日々のケアでの対策

前

後

- 爪切りや足部の処置で中腰姿勢となる場面が多い
- 椅子に座ってはいるものの腰を捻っての介助となっている場面あり

- 身体を捩じらないような位置での介助
- キャスター付き昇降椅子を使用し、中腰姿勢を防ぐ

浴室での対策

前

後

- 靴の脱ぎ履きなど、中腰姿勢での介助が多い

- 身体の使い方を再指導（膝をつく）
- キャスター付き昇降椅子を使用し、中腰姿勢を防ぐ

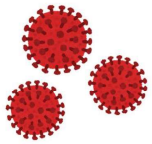
大きな所へ目が行きがちであったが、細かな所へ目を向けた事で腰痛改善有り

体制の確立②

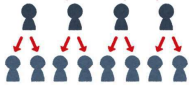
- **メンバーの技術力強化**
  - ・昨年度は技術認定スタッフが居たものの、委員会メンバーから脱会
  - ・技術力強化研修に参加し、ノーリフティングケア基本技術試験に合格
    →理解・技術度が高まり、充実した指導が可能

ポイントを絞ることができ、
無駄のない指導が
出来るようになった！

介護度の低い他フロアへの周知

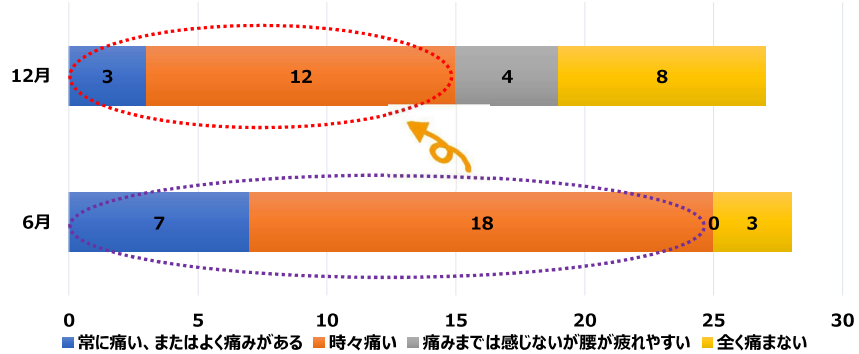


- **介護度の低い（平均介護度1.8）他フロアへの周知**
  - ・苑での感染症対策が継続中
    →フロア間の往来、職員間の接触も原則禁止
  - ・一時的（2か月間のみ）に対策が緩和されるも、その後元に戻る…
  - ・感染対策が厳しく、指導が困難
    →職員の配置移動に伴い、委員会メンバーを変更
  - ・その後各階リンクスタッフを配置
    →委員会メンバーからリンクスタッフへ指導し各階へ周知



自立度の高い利用者が多く、実際の**業務の中で活かす機会が少ない**…
→**人事異動の際の準備、職員のスキルアップを目的**とし今後も進めていく

腰痛調査



- **6月→12月で腰痛保持者が減少**
  89%→55%と減少
- **腰痛発生状況**
  自立を促す際などに発生（排泄、移乗など）

今後の課題 と 対応

- **職員への意識の定着**
  ✓時短ケアや職員都合を優先させない
- **スタンディングリフトの導入**
  ✓使用方法の伝達と効果の検証
- **在宅復帰困難事例への介入**
  ✓福祉用具の活用や身体使い方の指導
- **介護度の低いフロアへの浸透**
  ✓ケアの目的を周知し、広めていく必要

上記実現の為にも、PDCAを継続していく